

文化を創る、フラッグシップ。

2024 冬

GRANSHIP

グランシップマガジン vol.36



GRANSHIP グランシップマガジン vol.36 2023年12月15日発行

特集

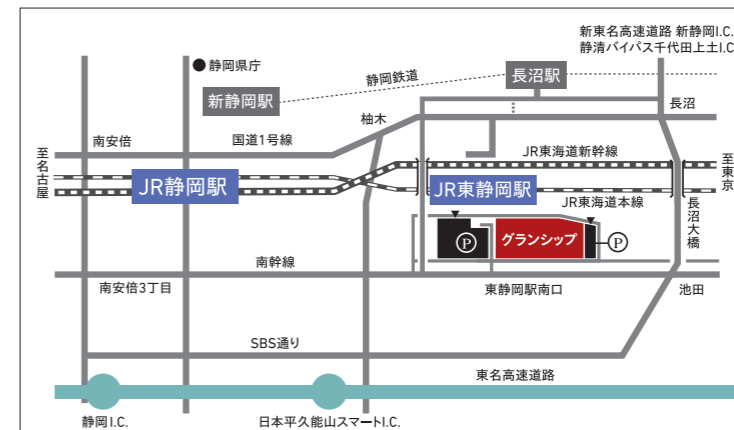
グランシップ出前公演 しずおか連詩の会 2023 in 三島

公益財団法人 静岡県文化財団

GRANSHIP サポーターズEYE



グランシップ静岡能(宝生流) 能「雷電」



ACCESS

- JR東静岡駅南口隣接
静岡鉄道長沼駅から徒歩10分
- 東海道新幹線(ひかり)で
東京・名古屋から1時間、新大阪から2時間
JR静岡駅乗換、東静岡駅まで3分
- 車では東名高速道路 静岡I.C.から20分
日本平久能山スマートI.C.から10分
新東名高速道路 新静岡I.C.から15分
静岡バイパス千代田上土I.C.から10分
- 富士山静岡空港から静鉄バス
(静岡エアポートライナー)で静岡駅まで55分
JR静岡駅乗換、東静岡駅まで3分



静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ 指定管理者 公益財団法人静岡県文化財団
〒422-8019 静岡県静岡市駿河区東静岡2丁目3番1号 TEL.054-203-5714 FAX.054-203-5716 <https://www.granship.or.jp>

03 GRANSHIP Special Stage
 グランシップ出前公演
 しずおか連詩の会 2023 in 三島

08 Interview
 スペシャルインタビュー・坂東祐大
 地上波ではあり得ない、
 すぐく攻めた表現になると思います。

10 Pick up
 一年の始まりに日本の文化に触れる
 グランシップ伝統芸能シリーズ
 グランシップ静岡能(宝生流)

11 Column
 岩下尚史の
 伝統芸は知るものではなく、身につけるもの。
 Vol.36 コジラは祟り神？

12 GRANSHIP Event Calendar
 2024年1月〜3月
 グランシップイベントカレンダー



16 Exhibition
 新しい年感動の瞬間は文化・芸術から
 1月〜3月のイベント情報

20 Information
 ふじのくに地球環境史ミュージアム &
 静岡県富士山世界遺産センター

22 Information
 『はらの騎士』音楽・根本卓也インタビュー
 SPAC
 台詞のテンションと双方向に高めあう音楽を
 SPAC 秋〜春のシーズン 2023・2024

24 Information
 静岡県立美術館
 天地耕作とは何だったか？
 美術館では初となる個展
 「天地耕作 初源への道行き」

26 Outreach
 グランシップ子どもアート体験！学校プログラム
 「2023年しずおか連詩の会」
 関連アウトリーチ
 「詩人と語ろう！言葉を語ろう！」

27 Information & Communication



表紙の絵



浦田周社 《湖上に輝く》2007年 220×410mm 木版画

〈富士五湖の一つ、精進湖からみた世界遺産富士山を表したもので、豊かな自然環境が残され、壮大で幻想的な富士の姿がスケール感を覚えます。〉
 浦田周社(うらた かねたか)
 1939年静岡市生まれ。高校卒業後、家業である浮世絵処「版隈」六世を継ぐ。1976年文化庁認定重要民俗文化財選定保存技術保持者に認定。浮世絵木版画彫摺技術保存協会会員となる。1994年静岡市芸術文化奨励賞受賞。1999年静岡県文化奨励賞受賞。2016年静岡県知事表彰受賞。2019年令和元年度文化庁地域文化功労者表彰受賞。2016年静岡産業大学内に「浦田周社木版画美術館」開館。構想から彫り、摺りまで自らが制作する一方、伝統技法の継承保存や版画の伝承、普及に尽力する。白日会会員、国際浮世絵学会会員、東京伝統木版画工芸協会会員、静岡県版画協会顧問。



グランシップ出前公演
 しずおか連詩の会 2023 in 三島

5人の言葉のアーティストが集まり、40編の詩を編み上げる「しずおか連詩の会」。今回は、提唱者・大岡信のふるさと三島に座を移して行われました。詩人たちが出合った景色や音、話題などが反映されるだけでなく、意見を交わすことで一味も二味も深い世界が描かれました。全40詩と発表会で語られた解説の一部をご紹介します。





自分の内にあるものを見せることができた。
三島の美しい紅葉の影響も受けた。

文月 悠光(ふづき ゆみ) / 詩人

第1詩集『適切な世界の適切ならざる私』で中原中也賞、丸山豊記念現代詩賞を最年少受賞。最新詩集『パラレルワールドのようなもの』を上梓し話題に。武蔵野大学客員准教授。今回3回目の参加。

同じ場で、作っている姿を見てセッション感を味わえた。刺激的で楽しい会だった。

岡野 大嗣(おかの だいじ) / 歌人

単著に『音楽』『たやすみなさい』ほか。共著に谷川俊太郎、木下龍也との『今日は誰にも愛されたかった』ほか。NHK文化センター梅田教室で短歌教室を開催中。今年度NHKEテレ「NHK短歌」選者。今回初参加。

緊張とリラックスが並行する行進曲の中で、毎日楽しく時間を忘れて詩作できた。

田原(でんげん) / 詩人

中国河南省出身。谷川俊太郎をはじめとする日本の詩作品を中国語に翻訳・出版。2010年、中国人初となるH氏賞を受賞。中国語詩集、日本語詩集など多数。中国長編詩賞受賞。今回2回目の参加。

詩作は縦に潜っていく感覚。けれど、連詩は横に広がっていく。言葉の質感の違いが面白かった。

小野 絵里華(おの えりか) / 詩人

2010年「ユリイカ」の新人賞を受賞しデビュー。2022年第1詩集『エリカについて』を刊行。エルスール財団新人賞、H氏賞を受賞。研究書に『1Q84スタディーズ』、私家版詩集・歌集がある。今回初参加。

素晴らしい仲間に出会って、皆に感謝したい。時代を反映した良い連詩だった。

野村 喜和夫(のむら きわお) / 詩人

2009年より創作の場をまとめるさばき手を務め、今回18回目の参加。戦後世代を代表する詩人の一人として現代詩の最先端を走り続ける。著訳書多数。第4回歴程新鋭賞ほか様々な文学賞受賞。

連詩-RENSHI-とは、複数人で短い詩をリレーのようにして連ねていく創作現代詩。連歌・俳句の美学を下敷きに、三島市出身の詩人・大岡信を中心に始まりました。海外でも創作されている、静岡県が世界に誇る文芸です。

「約束を潜めた歴史」の巻
40詩全編と解説の一部をご紹介します

【第一番〜第五番の解説】

悠光：連詩の発句(第一番)は、その後の内容を左右するので、あまり整い過ぎない言葉遣いを意識しました。創作日前日は御殿場で観光して、夜風が冷たくて黒い上着を買ったエピソードも盛り込んでいます。「山」は富士山。町を見つめる神。どこか原始的で神話のような光景を描けたらと。その景色にいろいろな詩人が訪れて、これから賑やかになっていくといいなという願いを込めました。

喜和夫：「人家から火が出ている絵なのになぜ美しいのだろう」。この問いは、人家から火が出ているという「存在」と「美とは何か」という二つの深い意味を孕んでいます。燃えている人家、つまりカタストロフ(大惨事)を見て美しいなんて思っはいけないけれども、見ている人は思ってしまう。その問いに答えるかたちで書きました。

原：文月さんの歴史的想像から野村さんの詩を経て、日本にたどり着いたものを振り返りました。今は日本にいますが、25歳まで中国にいたことを無視できないので大陸的な景色です。「島に佇んで大海」は日本に来たからの感覚です。

大嗣：「水平線」「大海を眺めて」から砂浜をイメージして「足跡がさらわれていく」と。はじめなので、短歌の七五調に頼りながら長い短歌にしました。最初に「さらわれて」、最後に「さらわれて」で、似た音を軽くつないで音の調子も整えました。

絵里華：「黒い犬」をなでている人に注目しました。ワンちゃんのぬくもりが消えてなくは生まれなかったでしょう。短歌的テクニックと発想にあふれていますね。

【第二十三番の解説】

喜和夫：今年の連詩を、通奏低音のように貫く「歴史」というテーマに対する見解を潜ませました。身を投げるといことは、超越的な何かを求める行為ですが、「また戻ってきちゃいますよ」という岡野さんのブラックユーモアを拝借したような詩です。今ここがすべてで、ここが歴史なのだという主張をユーモアの内に潜ませました。

【第二十六番の解説】

原：以前谷川俊太郎さんから、「連詩は、前の人のイメージをもらって離れないといけない」と助言をいただきました。そのことを鮮明に覚えていたので、「渦巻く」というイメージをもらい、私は大陸出身なので海よりも「運河」だと考えて、違う世界へイメージを飛ばしました。

【第三十番〜三十一番】

悠光：第二十八番の読点と第二十九番の「読点の数々」を引き受けて、沈黙のように置きました。「せがのびてしまったので、自分は大になつてしまった。だけど、一緒に過ごしたぬいぐるみや人形などは小さいまま、という物語です。岡野さんの助言で「さわた」を「ねむった」に変えて、成長した時間が感じられるようになりました。

原：その「ねむった」を受けて、時間的範囲を広げようと考えました。以前砂漠で見た、何千年という時間に固定されて眠るミイラのごとが忘れられなかったので二行目で、最終行は個の存在や人間の存在は何だろう、と。

なっていましたので「透明なぬくもり」。岡野さんから「さらわれて」と「さらわれて」の話聞いて、ここでも、「虹」と「午後二時」をかけています。

【第十四番〜十六番の解説】

悠光：第十三番の「ほく」と「きみ」、「川」と「橋」という対となる言葉がユニークな響きになっていたのので、対のイメージを生かそうと、「つがいの鴨」を登場させました。野村さんの官能的な世界観は、鴨の戯れだったという景色に変わりました。創作初日に散策した源兵衛川がとてもきれいな川で、たくさんの鴨がいたので詩に反映させました。

絵里華：「多重露光」は第十四番の「光」を受けて。川を散策していた時、撮影した写真にたまたま映っていた光の景色です。その後は朝食の風景。創作日の朝、集合時間の前に慌てて朝食を食べていたら、野村さんがおみそ汁をのんびり選んでいるのが見えて、「もうそんなに慌てなくていい」としました。(笑)

大嗣：「ほんとうの景色」から「視野 聴野」、慌てなくていいから、ゆったりした時間の中で「花束を編む」と。短歌をつくる時、僕は音をとって意識しています。目に見える景色「視野」も、音で聴こえる景色「聴野」にも、音の響きだけ取ると視(シ)には「詩や「死」があり、聴(チヨウ)には「蝶」や「腸」がある。そういう美しい言葉や暗い言葉を織り交ぜることが短歌では多いのですが、そういうものが一切ない地平で、それ以外のエトセトラ「へ等」で美しいものを編むことが、本当の詩作ではないかと思って書きました。

喜和夫：この詩を詠んではっとしました。詩人だけで連詩を巻いていたら、こういう作品なエラーが詩なのだと感じましたね。

【第三十三〜三十五番の解説】

大嗣：第三十二番の「砂丘」のイメージを引き継ぎました。「駱駝の足跡を辿って」歩む景色にいきなり連れていきたくて、足元の視界から、「木立を抜けて広がるまっしろな視界」でベースレーソングが聞こえる。「まっしろ」はケーキのクリーム。最終行の「シ」は、ハミング後から朗読することで景色を広げました。

喜和夫：この無数の「シ」が示すものは多くの詩人なのではないかと発想し、その詩人のルーツを探して、ようやく三代前の母の洞窟の中で見つけた。小野さんが見事に受け取ってくれました。

絵里華：「きみ」は必ず詩を書くだろうと思っていました。ちょっとチャミングにしたくて、「ほらね」という出だしに。詩を書くというのには、「湖に向かって」ひとり石を投げつけている「ようなもの」だと思うんです。たとえ、誰も読んでくれなかったとしても。それでも、「宇宙最古の図書館」では大事な一冊が必ず残っているはず。そんな希望を込めてまとめました。

【第三十六番〜四十番の解説】

原：第三十四番で「母」、第三十五番では「詩人」と「図書館」が登場したので「母語」。三千年以上歴史がある中国語から見れば、日本語の歴史は「浅瀬」。「国籍不明の漢字たち」は、日本語の意味か中国語の意味か判別できない漢字を表しています。

一	夜のつめたさに驚き、黒い上着を羽織った。 そこから山は闇に身を潜めた。 用意された町、そこに雪を降らせる神。 人家から火が出ている絵なのになぜ美しいのだろう。 ただ歴史と夜を共にする約束。	悠光
二	不思議だ 蝨燭の炎をじつとみつめていると それに触れることは絶対できないのに 炎は私の最も内奥から揺らめき出たようにみえる	喜和夫
三	漂う道に走る馬車を降り 大陸からのメッセージと挨拶を込めて 私は地平線から水平線へやってきた 島に行んで大海を眺めて かすかな光は泳いでいる人魚姫のようだ	原
四	足跡がさらわれていく 待ち合わせ場所には黒い犬が来た ひとしきりさわられて虹になる	大嗣
五	手のひらには透明なぬくもり なををなくしてしまったのだからう 午後二時の郵便局 手紙はきつと届かないから わたあめみたいな雲をなめている	絵里華
六	地上に届く最初の一粒は 写真に添えられた文字を濡らした。 ここで降る雨のこと、あなたには知らせなかった。	悠光
七	私は閉じ込められた 岩にすわって笑みを浮かべたまま 百年の孤独よりさらにひどく 紙葉いちまいのなか 在りし日の彼 と私を指差して きみは平然と言う 木漏れ日は右肩から射したまま 私を琥珀のように塗り込めている	喜和夫
八	太古を飛ぶトンボは時に刻まれて 生き生きとした記憶は その無言の呼びかけによって風化されない	原
九	梱包を解かないまま巻かれていると △SUNEVの札を掲げた鴉が降り立った カーテンをひらいていく 裾を唾えて 一枚 また一枚と 鋭い音を立てて 窓に囲まれた草原に影が差し込む	大嗣
十	その鳥はきつと神さまの監視カメラ 映らないよう少女は丘の上まで駆けていく そしたらあったかい布団の中で目覚める	絵里華
十一	ねむたい鼻にクロワッサンの景色が届く 旋回の半ばで見えたのは砂嵐 秋の雲を縫えば新聞のインクの香り 見えたのは赤 アドバルーンの色	大嗣
十二	止まない銃声は遠方を侮辱している 流砂は地球の外へ流れてゆく 傷ついたサボテンは生さる墓碑のように きみが上になりばよくに騎乗して あさむつの橋あまひこの橋 鏡は深度においていつも春だらう	喜和夫
十三	われわれが認めるのは柔らかな戦争だけ ぼくが上になりきみを組み敷いて みみと川なりのそ川 うしろで鳴く蚊の暗さとともに きみが上になりばよくに騎乗して	原
十四	わたしという水を離れるとき、 そこに ひとすじのせせらぎが残る。 つがいの鴨が戯れながら 光と共に横切っていく。	悠光
十五	ほんとうの景色はいつも多重露光の奥にある 猫の毛がついている袖口 生焼けのフレンチトーストに ナイフをいれば朝があふれる もうそんなに慌てなくていい	絵里華
十六	視野 聴野 ささぎるものがないときの △等△であなたに花束を編む	大嗣
十七	あなたは彗星、長い尾を引いて夜空を滑ってゆく あなたは風鈴、チリンチリンと風の音になる あなたは獣、そっと私を噛みつく あなたはタンポポ、私の心の荒涼を卑しく飾る あなたは小川、鮑きもせず私の頑固を洗い流す	原
十八	日本語には繫辞beがない 同一性の保証がない 並ぶだけで蛸足のようにヘテロもホモもトランスも	喜和夫
十九	蛸のようにくつろぐ。露天の湯にざぶんと肩をくぐらせて。 脳みそまで脱力して生きなさい、と わたしの疲れた軟体動物が命じてくる。 (現実にはたれた赤い顔め) 腰を上げると、夜景のひとつに病院がある。	悠光
二十	まばたきするたび恋が生まれる いつからかわたしの体内に医師が住み着いたから 静脈に秋が流れていく	絵里華

二十一	朝の雨が昨夜の夢路を濡らした 傘をさし雨音をつれて歩き、夢の中の自分を探した 薄霧に包まれた世界に迷い込む 過去がはつきり浮かび上がって 未来はほんやりと見分けられない	原
二十二	秘密基地の森でわたしたちが指切りしたように 時代の余白でまだ生まれない子どもたちが息をしている もう二度と誰もたどりつかない場所	絵里華
二十三	あるいは不意の地の果て 血の果てじゃないよ ちゃんと灯台があつて岬があつて ただそこから身を投げて なぜかプーメランのように戻ってきてしまうんだ	喜和夫
二十四	砂浜が大量生産の既製品で賄われていたころ 政の占いにはレコードが使われていた 逆回転に星の砕ける音がするとき真の後継者が現れた	大嗣
二十五	切り株に腰かけようとした途端、 渦巻く年輪の中心で何かが立ち上がった。 見ると、赤い靴を履いた少年がこちらを睨んでいる。 こんな世界にしたのは誰なんだ？ と 泣きもせず 叫びもせず。	悠光
二十六	運河は蛇に変身した 冬眠しようとする節目に 氾濫を身ごもらせながら、大地の暖かい子宮に這い始める	原
二十七	血だらけの海のなかで すべての生き物たちはしあわせに溶けた、 という記述に蛍光ペンを走らせる あたらしい人体模型を作らなきゃ わたしにはもう腎臓はない	絵里華
二十八	経頭蓋電気刺激、すると頭に浮かんだイロハ虫が、 脊椎と神経を通じて手に至るまでの、 長い長い旅、サドンデス内包、	喜和夫
二十九	ストープに両手を翳す わたしたちが知らないあなたがたのはなし おこぼれをついばみに ゆりかもめがやってくる 体中に待ち針 ピンセットでつまみとる その読点の数々	大嗣
三十	、、、セガのびてしまったの 、、、、ほろほろになるまで 、、、、、、この子とねむった	悠光
三十一	私の眺望を高い壁にしてください、狼と寒風を防ぐために 私をオアシスにしてください、千年の眠りについたミイラを目覚めさせるために 終わりを知らぬ観旅者になってください、自分の自分を見つげるために 目の前のあなたを天使にしてください、あなたの身体にいつまでも侵入できないように 私は私であり続けてください、私は神にも他人にもならないから	原
三十二	盛り塩のように砂丘を据えて 天はこの惑星を清めようとしている。 半分の月が鳥人を見つけた。	悠光
三十三	サ行の刺さる風に押されて 駱駝の足跡を辿って さびしい靴下が歩みを進める 木立を抜けて広がるまっしろな視界	大嗣
三十四	母の洞窟の向こうには母の母の洞窟があり そのまた向こうの洞窟で きみは鎌鼬のエネルギ―を盗み天の川の衣擦れの音を聞いた	喜和夫
三十五	ほらね、だから詩人になったでしょ あなたはひとり石を投げつけている 湖に映るわたしは産毛 いつか波紋にふれて 宇宙最古の図書館へ流れつく	絵里華
三十六	母語の船に乗って日本語の浅瀬に座礁した 国籍不明の漢字たちが船首に立って望洋の暎をして 意味の彼岸はどこにあるのだろう	原
三十七	嘘だろうか？ 詩行はすべて消えてしまった。 どうやら 尻尾を踏まれた猫の腹いせらしい。 そろそろ相だな長寿猫だろう。ゴールドの首輪をして。 拾われたくせに、私が拾ってやったのだという顔。 またお前か。文字を食ったのは。	悠光
三十八	みをつくし環境依存叙事に異を唱えて陸を金継ぎにした 私利により若い航路は認めずに自伝をショー・ウインドウに並べた 待ち合わせするにはうってつけの場所 暇つぶしには主語を探して	大嗣
三十九	ヒトがあらわれたり、ヒトが消滅したり それらが暑熱に蒸れるステージで ストロボのように交替する それでいい、それがいい 希望とは危機の結晶体	喜和夫
四十	天空の梯子はクリスタル製 ひらめきながら きらめきながら 白いページが待っている	絵里華

創作 2023年11月9日(木)～11日(土)三島市民文化会館 発表会 2023年11月12日(日)三島市民文化会館

2023年しずおか連詩の会 創作現場&発表会 潜入レポート

秋時雨の創作2日目。紅葉樹の枝葉が部屋の窓近くまで迫り、詩作の様子を見つめているようでした。この日は第十四詩から始まり、第二十七詩でタイムアップ。写真は、岡野さんの第二十四詩を検討しているところ。宗匠の野村さんのOKをもらい席に戻る岡野さんが「楽しくなってきた！」と一言、さらにギアが上がる予感がしました。



コート姿のお客様も目立った11月12日の三島市民文化会館。開場前から長蛇の列ができ、連詩への関心の高さが伺えました。発表会第一部は主に朗読。言葉の景色を音で表現しました。第二部は、お待ちかねの解説。絶妙な言葉のチョイスにうなずくお客様。第三十三詩では岡野さんから風の音をハミングで表現するという演出も。創作の裏話も披露し、笑顔があふれていました。



悠光：第三十四～三十六番は、詩人の誕生や人生をメタ的に捉えています。それを私が受け継いでしまうと、田原さんの詩も薄れてしまうので、あえてこの流れを裏切る展開にしました。実はかなり長考してしまい、その上パソコンまで不調になって下書きが消えて…。動揺しましたが、猫がテキストを食べたなら仕方ないね、と自分への慰めとして言い聞かせました。詩人の滑稽な一面も出せたかなと思います。(笑)

大嗣：最後は短歌三首で、第三十六番の「浅瀬に座礁」から、「みをつくし」。第三十七番の「文字を食った」から環境依存文字をイメージして「環境依存叙事」という造語をつくりました。一首目の金継ぎで大陸をひとつにした男が二首目で大富豪となり、新たな大陸を見つけようとする者を認めずいたが、時は経ち、三首目であつて男の自伝を並べたショーウインドウは皆の待ち合わせ場所になっている。僕にとって詩は、主語や語り手を、読者が想像できるものだと思い、書きました。三首の初めの文字を横に読むと「み」「し」「ま」になります。置き土産です。

喜和夫：第三十八番で人新世をイメージしたので変容させて、歴史的現在に臨む我々の気持ちを整理しようと思いました。説明不要な分かりやすい内容です。

絵里華：野村さんからの優しいパスを受けて、「結晶体」からクリスタルが浮かび、新しい表現の世界へ行くイメージを描きました。「それでいい、それがいい」とあわせて、「ひらめきながら、きらめきながら」。地球が減びそうになったり、海が大荒れしたりもしましたが、最後は明るい未来を目指して、「白いページが待っている」。新しい詩を書き連ねて行こうという気持ちを込めました。

オーケストラや室内楽、人気ドラマや映画の音楽、米津玄師さんの共同編曲、さらにはニュース番組のテーマソングなど、あらゆるフィールドからのオファーが後を絶たない、注目の作曲家・坂東祐大さん。尖っているのに心地よく、新風を吹き込むような音遣い。唯一無二の作品を生み出す根源や来年3月に開催される公演への思いなどを聞きました。



地上波ではあり得ない、 すごく攻めた表現になると思います。

坂東 祐大

淡い日差しが入り込む取材部屋はアートの雰囲気、坂東さんと溶け合っていました。静岡との接点を探ると、「小学生の時にヤマハの工場へピアノを選びに行きましたよ」とのこと。メイドイン静岡のピアノで育った少年時代のお話から始まりました。

—お母さまのすすめで、ピアノを始めたそうですね。

はい。母は音大短大部の出身で、中学校の音楽講師や町のピアノの先生をしていましたが、僕にはスパルタ教育で…。練習がとにかく嫌でした。

—ピアノの演奏家ではなく、作曲家を目指したのはなぜですか？

小学4年生の頃、当時習っていたピアノの先生から、作曲へ転向することを勧められました。要は、ピアノは「人口」が多くてプロになるのは厳しいという現実を突きつけられて。親も盛り上がってしまい、「ノー」と言えず今に至っています(笑)。

—ご自身の意思で始めたわけではないようですが、作り手としての面白さを感じたから、続けているのだと思いますが？

をもらえず公演になりそうですね。少なくとも、アートとしてやるという文脈では、とても大事にしていることです。単に演奏が良かった、感動した、ありがたうというコンサートは沢山あると思うんですが、現代音楽の作曲家のコンサートとして公演を催したら、それは違うと、常々思っています。

—静岡でこのようなイベントはすごく珍しいと思います。ぜひ多くの方に体感してほしいですね。

はい。よく、現代音楽では、「これが最先端の表現」と言われますが、何が最先端である、なんて定義できる時代じゃない。アクトチュアルな2024年に、音楽でこんなことができるんだ！という可能性を見せられたらと思っています。地上波ではあり得ない、すごく攻めた表現にしたいと思いますので、日常に刺激を求めている方は、ぜひ楽しみにしていただきたいですね。

坂東さんといえば、米津玄師さんとの共同編曲でも有名です。二人は同世代ということもあり、聴いてきた音楽が近いようで、何かしらカルチャー要素を含んだ曲を好むことで気が合うそうです。お話を聞く中で感じたのは、豊富な知識と発想力。泉のごとく湧いてくるアイデアに、来年3月の公演が楽しみです！

先日、詩人の谷川俊太郎さんにお会いする機会があって、作曲家の武満徹さんや湯浅譲二さんのお話をいろいろ伺ったのですが、本当に親しい付き合いだったんだと感ずいて、僕たち世代もそういう「コミュニティをもっと築くべきだ」と思いました。

静岡の皆さまは「しずおか連詩の会」の影響もあってリテラシーが高いという印象です。そういう場所で現代音楽と現代詩の公演ができることがとても嬉しいです。

—今回の公演は、以前取り組まれた言葉と音楽のインスタレーションがベースのようですが、なぜ、そのようなアイデアに至ったのでしょうか？

—確かに毒が盛られています(笑)。文月さんの日記はどのように表現されましたか？

複数の日記の文章を6人の方に朗読してもらいました。「何月」「何日」「誰が」「で」であった「みたい」、それぞれのテキストから言葉を切り刻んで全然違う文脈で提示したら、「全然」「突然」「お肉券」「走りだす」などという別の世界観を映し出す作品になって、とても面白いインスタレーションができました。

—今回坂東さんと文月さんのセッションはありますか？

同時発信もあるかなと思って

Yuta Bandoh

坂東 祐大 作曲家/音楽家

1991年生まれ。刺激と知覚の可能性や脱構築などをテーマに、幅広い創作活動を行う。作品はオーケストラ、室内楽から立体音響を駆使したサウンドデザイン、シアター・パフォーマンスなど多岐に渡る。東京藝術大学作曲科及び同大学院修了。第25回芥川作曲賞受賞(2015年)。2022年1月には初の作品集となる「TRANCE/花火」がDENONレーベルよりリリース。2016年、Ensemble FOVEを創立。代表として気鋭のメンバーと共にジャンルの枠を拡張する、様々な新しいアートプロジェクトを多方面に展開。ドラマ『大豆田とわ子と三人の元夫』(坂元裕二 脚本)、映画『竜とそばかすの姫』(細田守監督、音楽:岩崎太整、Ludvig Forssellと共に)、米津玄師との共同編曲、宇多田ヒカルの編曲及び指揮、嵐「カイト」オーケストラアレンジメント等。

坂東祐大&文月悠光 音楽と詩と声の現場2024

3/20(水・祝) 17:00~

- 中ホール・大ホール
- 一般5,000円、こども・学生1,000円

—来年3月20日の公演は、作曲家と詩人によるコラボレーションというユニークな企画ですね。

—楽曲を表現する演奏家選びはかなり重要ですね？

—演奏を表現する演奏家選びは、とても大事です。作品を作る時も当て書きをして作ることが多いですね。

自分が作った作品を、人に演奏してもらおうという行為が面白いと思いますね。もともと建築家や映画監督になりたいと思っていて、自分の考えたビジョンをいろんな人にリアライゼーションしてもらい、表現として確立していくという点で、作曲家もそれに近いのかなって。特に、公演をどう作り上げるか、演奏家と一緒に考えて作ることに面白さを感じています。



vol.36 ゴジラは祟り神？

二度目に能を見たのは小学二年生のときで、おなじ故郷の熊本、八代の舞台であったと憶えます。舞台には雪のような白衣の女が二人、綺麗な扇で桶に水を汲むような形を見せたので『松風』であったに違いありません。そのあと、客達が席で弁当を遣う狂言が済み、男が出て来て、何かむずかしい顔を

して居ると、橋の向こうから美しい少年があらわれ、男に何ごかを告げると、再び橋の奥から、今度は恐ろしい何か走り出て来たのを見て思わず、ア、かみさま、と声を出した私は隣席の父に小突かれました。それが『小鍛冶』とは知らぬま、能の帰りに父を引っ張って百貨店へ行き、さっき見た神様と同じ顔つきの面をねだって帰宅すると直ぐ、くわつと眼を開いた「小飛出」を子供部屋の壁に掛けたとき、私の将来を予見して居た母が、あからさまに眉をひそめたことを思い出します。それから五十を経た今も、古芸の鑑賞と云うよりは、何となしに神様を見たいとき、ひとりで能楽堂へ足を運んで居るような気がします。

さて、正月のグランシップ能は『石橋』だと聞きました。シテの宝生太夫は達識で、霊獣獅子をライオンだと思う人ではありませんが、心ある方には舞台上に文殊菩薩が見えるかも知れません。

金銀の折り紙のような、しかし、大きなものがぐらりと、眼の前に落ちて来ました。四つのおきのことです。母が茶飲ばなしのひとつとして、くりかえし、来客に聴かせて居ましたから、私の見た夢でないことは確かです。母に連れて行かれた熊本の水前寺公園内の能舞台が焼失したのは、その直後のことであったことも、おとなになって知りました。

大学で折口信夫の学問を齧ったせいか、脇能に踊れる神々のみならず、橋の奥から遙々とおとずれる公家も武人も美女も精霊も、あるいは現実の人間めかした市井の男女さえ、本来は姿を持たぬ神々の、かりそめの姿のように思われるのです。

そうした能舞台上に踊れる神々は、私たちの代表であるワキに向かって怒り、怨み言を言い、さめざめと泣き、苦しみを訴えるかと思うと、私たちを励まし、国を祝福したあとで足早に、あるいは静々と、橋の向こうに還って行きます。つい先日見た新作の『ゴジラ』にも、そうした日本の神々の面影がありました。必要はありません。本居宣長は「尊きこと善きこと、功しきことなどの優れたるのみを云ふに非ず、悪しきもの奇しきものなども、よにすぐれて可畏きをば神とは云ふなり」と説いています。神様が踊れたら、善きにつけ悪しきにつけ、もてなしたり、なだめなどとして、お還り頂くのが作法なのです。

伝統芸は知るものではなく、身につけるもの。 岩下尚史



「石橋 赤黒」

グランシップ伝統芸能シリーズ
グランシップ静岡能(宝生流)

鶴と亀、獅子が華麗に舞う体感能
今の時代を反映した特別な演出にご注目を

静岡県が「東アジア文化都市」として選定された2023年。県内各地で日本・中国・韓国の多彩な文化を通して、様々な交流が生まれました。毎年、一年の始まりにお届けする「グランシップ静岡能」も、「東アジア文化都市」がレガシーとして後世に残って行くことを願い、中国にちなんだ演目を上演します。

「石橋」は古代中国が舞台となる演目で、シテ方宝生流第二十代宗家・宝生和英さんが170年ぶりに新たな演出で上演したことで話題となりました。従来の連獅子と異なり、今回は「対立」を示す赤と黒の獅子が舞う特別な演出。混沌とした今の時代を能の作品として残したいという思いから生まれた、現宗家の意欲作です。また、中国の玄宗皇帝が新年に開いた節会で、鶴と亀が舞うという縁起の良い「鶴亀」も上演。いずれも新春にふさわしい華やかな演目で初めて能を鑑賞する方にもおすすめです。

公演当日は、日本文化をさらに親しんでいただけるよう、お着物でご来場された方に先着で宝生能楽堂オリジナルグッズをプレゼントします。

現存する世界最古の舞台芸術として、2008年にユネスコの無形文化遺産に登録された「能楽」。日本を代表する伝統芸能として古来より独自に発展してきたと思われる能楽ですが、その成り立ちから現在に至る長い歴史の中でアジア文化の影響を受けながら発展し、継承されてきました。能楽の新たな魅力を発見できる演目を揃えた今回の「静岡能」にご期待ください。



シテ方宝生流第二十代宗家 宝生和英

グランシップ伝統芸能シリーズ グランシップ静岡能(宝生流)

1/27(土) 14:00~
 ■中ホール・大地 ■全席指定 / 一般5,500円 子ども・学生1,000円(28歳以下の子ども・学生) ※未就学児入場不可
 〈演目〉能「石橋 赤黒」(シテ 宝生和英、水上 優)、能「鶴亀 曲入」(シテ 大友 順)
 狂言「佐渡狐」(山本泰太郎)



最新情報・WEB申込はこちら

「石橋」ってどんなお話？

修行僧が文殊の浄土へ懸かる石橋のもとに着くと童子が通りがかり、不思議な良い事が起こるので橋を渡らずここで待つように告げます。暫くすると、荘厳な音楽が鳴り響き、獅子が現れて華やかに舞うというおめでたいお話。普通の能の型に当てはまらない獅子の動きに注目!



TV・ラジオでコメンテーターとしても活躍。
作家・岩下尚史氏のコラムが好評連載中。

岩下尚史(いわしたひさふみ)……作家、國學院大學客員教授、新橋演舞場(株)退社後、著者の発生と変遷について著した『芸者論』にて、新人としては異例の第二十回和辻哲郎文化賞を受賞し、本格的な作家活動を開始。その他、三島由紀夫の恋人への取材を書き下ろした『見出された恋』、『ヒタメン』などの著作がある。また、日本の伝承芸能や古典的な暮らしについてのエッセイ等も多数著している。現在、季刊『美しいキノ』(ハースト婦人画報社)にてエッセイを連載中。また、現在、新刊発表に向け、鋭意執筆中。



1/27[土] グランシップ企画事業 本誌P10の詳細をチェック!

グランシップ静岡能(宝生流)

■中ホール・大地 ■14:00～
■一般5,500円 こども・学生1,000円

第二十代宝生宗家・宝生和英が、170年ぶりに新たな演出を取り入れ、2021年に初演した古代中国が舞台の「石橋 赤黒」と、玄宗皇帝が新しい年を寿ぐ舞が美しい「鶴亀 曲入」を上演。

〈演目〉能「石橋 赤黒」、能「鶴亀 曲入」
狂言「佐渡狐」

グランシップチケットセンター tel.054-289-9000



舞台

1/23[火] 就職

若年者就職フェア in しずおか

■大ホール・海 ■13:30～16:00
静岡新卒者等人材確保推進本部
(静岡労働局・ハローワーク・静岡県等)
tel.0120-034-036(受託企業:(株)東海道シグマ)

1/25[木] 就職

就フェス 静岡市障がい者合同企業説明会

■6階交流ホール ■14:00～16:00
静岡市障害福祉企画課
tel.054-221-1198

1/27[土] 音楽 【グランシップ出前公演(磐田市)】

フィンランド発 驚異のハーモニカ・カルテット「スヴェング」

■アミューズ豊田 ゆやホール ■14:00～ ■一般3,800円、こども・学生1,000円

大小様々なハーモニカを使い、ジブリ作品の主題歌からクラシック、タンゴまで、超絶技巧で表現する唯一無二のステージ。ユーモアたっぷり&変幻自在の演奏をお楽しみに!

〈曲目〉久石譲:映画「ハウルの動く城」より「人生のメリーゴーランド」
J.シベリウス:交響詩「フィンランディア」Op.26
J.ウィリアムズ:映画「ハリリー・ポッターと賢者の石」より「ヘドウィグのテーマ」他

グランシップチケットセンター tel.054-289-9000



2/12[月・休] イベント

2024中込ダンススクール New Year Party

■6階交流ホール ■13:00～16:30(予定)
事前申込制
中込ダンススクール tel.054-281-0335

2/9[金]～11[日・祝] 展示

静岡大学 教育学部&地域創造学環 卒業制作展 2024

■6階展示ギャラリー
■10:00～18:00(11日は17:00まで)
静岡大学教育学部美術教育講座
tel.054-237-9540

1/31[水] 講演会

令和5年度 フレイル予防市民講演会

■6階交流ホール ■14:00～16:00
静岡市地域包括ケア・誰もが活躍推進本部
tel.054-221-1623

2/15[木] 就職

ハローワーク静岡・清水 障害者就職相談会

■大ホール・海 ■13:00～15:30
ハローワーク静岡 tel.054-238-8604

2/11[日・祝] 就職

マイナビ看護学生就職セミナー 静岡会場

■大ホール・海 ■13:00～17:00
(株)マイナビ s-shizuoka-event@mynavi.jp

2/3[土]・4[日] 展示

ジョイフル恵利新作振袖展示会

■6階展示ギャラリー3 ■10:00～18:00
ジョイフル恵利静岡店 tel.0800-200-7537

2/15[木] その他

令和5年度 静岡市若年性認知症市民フォーラム

■6階交流ホール ■13:00～15:30
静岡市地域包括ケア・誰もが活躍推進本部 tel.054-221-1623

2/17[土]～3/3[日] 展示 グランシップ企画事業

グランシップ 高松宮妃のおひなさま展

■6階展示ギャラリー ■10:00～17:00
■入場無料

徳川慶喜公の孫にあられる高松宮妃喜久子様のご成婚の際にお持ちになった京雛を展示。精巧に作られた雛人形と約600点の調度品の数々をご覧ください。期間中には各種イベントも実施します。

グランシップチケットセンター tel.054-289-9000



グランシップイベントカレンダー



グランシップホームページ イベントカレンダーTOPへ

2023年12月の情報です。内容等変更となる場合があります。グランシップ企画事業の公演・イベントへご来場の際には、必ずグランシップホームページで最新情報をご確認ください。なお、貸館催事につきましては、それぞれの主催者にお問い合わせください。

1/12[金] 音楽 グランシップ企画事業

静岡ガス PRESENTS グランシップ&静響 ニューイヤーコンサート

■中ホール・大地 ■昼の部14:00～/夜の部18:30～ ■2,000円

※事前申込は10/31で受付終了。抽選後、期日までに手続きが完了されない席を12/9から一般販売。先着順(1人4枚迄、座席は選べません。)
※予定枚数に達し次第、販売終了します。

名匠・高関健率いる富士山静岡交響楽団が、新年にふさわしい華やかな楽曲をお届けします。7つの国際コンクールで優勝したピアニスト・高木竜馬によるダイナミックなピアノ協奏曲もお聴き逃しなく。

〈曲目〉
グリーグ:ピアノ協奏曲イ短調 Op.16
J.シュトラウス2世:喜歌劇「こうもり」序曲、ワルツ「春の声」Op.410
ワルツ「美しき青きドナウ」Op.314 他



高関 健(指揮者)
グランシップチケットセンター tel.054-289-9000



高木竜馬(ピアニスト)



富士山静岡交響楽団

1/21[日] 就職

ナース専科就職ナビ 合同就職説明会2025

■6階展示ギャラリー ■12:00～17:00
ナース専科就職ナビ運営部 tel.0120-979-500

1/21[日] 音楽 グランシップ企画事業

H ZETT M×神奈川フィルハーモニー管弦楽団 「新しいチカラ」

■大ホール・海 ■17:00～ ■S席5,000円 A席4,000円 こども・学生1,000円

ジャンルを超え、ピアノの可能性を無限に引き出すピアニスト・H ZETT Mと神奈川フィルハーモニー管弦楽団が贈る、遊び心溢れる演奏会。H ZETT Mが、この日のために作・編曲したオーケストラ曲も披露!

〈曲目〉
青の図鑑(新曲)、新しいチカラ、AKATSUKI 他



高井優希(指揮者)



H ZETT M(ピアニスト)



神奈川フィルハーモニー管弦楽団

グランシップチケットセンター tel.054-289-9000

1/3[水] その他

2024静岡市二十歳の記念式典

■大ホール・海 ■14:00～15:00
静岡市二十歳の記念式典実行委員会
(青少年育成課)
tel.054-354-2614

1/5[金]～8[月・祝] 展示

mocha展 他 絵画展示販売会

■6階展示ギャラリー
■10:30～18:00(初日は13:30～)
アールピバン(株) tel.03-5783-7302

1/6[土]・7[日] 舞台

第11回 静岡県民ミュージカル「海賊」

■中ホール・大地 ■6日18:30～
7日11:00～、14:00～、17:00～
■前売り3,000円 当日券3,500円
静岡県民ミュージカル実行委員会
info@shizuokakenmin-m.com

1/11[木] イベント

SHIMIZU×物流

■10階1001会議室 ■13:00～16:00
(株)ベルキャリアール tel.054-204-0435

1/14[日] イベント

New Year ダンスフェスティバル

■6階交流ホール ■13:00～16:30
静岡市ダンススポーツ連盟
tel.080-6909-3128

1/20[土] 音楽

第57回 静岡県管打楽器 アンサンブルコンテスト高等学校の部

■中ホール・大地 ■9:50～18:30
■午前・午後 各1,000円(当日券有)
静岡県高等学校吹奏楽連盟
tel.0558-22-3164

1/20[土] 音楽

レコードコンサート AT グランシップ

■2階映像ホール ■13:30～
前田幹夫 record.cd.concert@gmail.com

1/20[土] 講演会

令和5年度小児・AYA世代がん医療公開講座

■11階会議ホール・風 ■14:00～16:00
静岡県立こども病院 がん相談支援センター
tel.054-247-6251(内線659)

3/12 [火] 就職

マイナビ就職セミナー
静岡会場
■大ホール・海 ■13:00~17:00
(株)マイナビ
s-shizuoka-event@mynavi.jp

3/10 [日] イベント

Spring ダンスフェスティバル
■6階交流ホール ■13:30~16:30
静岡市ダンススポーツ連盟
tel.080-6909-3128

3/10 [日] イベント

Digital Future Fest
「第5回 ジュニアプロコン in 静岡」
■11階会議ホール・風 ■13:30~17:30
(株)エイエイピー tel.054-284-6333

3/18 [月] 就職

マイナビ
福祉介護業界就職セミナー
静岡会場
■大ホール・海 ■13:00~17:00
(株)マイナビ
s-shizuoka-event@mynavi.jp

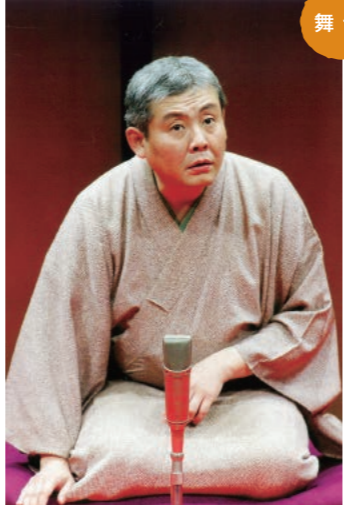
3/17 [日] 舞台

グランシップ寄席
～柳家喬太郎独演会～

■6階交流ホール
■昼の部13:30～、夕の部16:30～
■一般3,800円(昼の部・夕の部それぞれ)
こども・学生1,000円

落語界を牽引する人気噺家・柳家喬太郎が贈る、昼と夕のスペシャルな2公演。爆笑ものからじんわりと泣かせる人情噺まで、どんな演目も喬太郎節で魅了します。

グランシップチケットセンター tel.054-289-9000



3/27 [水] 音楽

静岡市立高等学校マンドリン部
第24回定期演奏会
■中ホール・大地 ■18:00~20:30
静岡市立高等学校マンドリン部
tel.054-245-0417(松川)

3/20 [水・祝] 音楽

坂東祐大 & 文月悠光
音楽と詩と声の現場2024

■中ホール・大地 ■17:00～ ■一般5,000円 こども・学生1,000円

ドラマや映画への楽曲提供、米津玄師の編曲等、ジャンルにとらわれない活動が常に話題となる作曲家・坂東祐大が贈る新しい形のコンサート。詩人・文月悠光のテキストキュレーションにも注目。

3/29 [金] 就職

～YourLife静岡エリア～
高校生のための合同企業説明会
■大ホール・海 ■13:00~16:00
YourLife tel.054-663-1100



坂東祐大(作曲家)



文月悠光(詩人)

3/31 [日] 音楽

第1回発表会
バレエスタジオ リエット
■中ホール・大地 ■14:30~17:00(予定)
バレエスタジオリエット
tel.054-203-5713



多久潤一朗(フルート)



秋田勇魚(ギター)



石上真由子(ヴァイオリン)



矢部華恵(朗読)

グランシップチケットセンター tel.054-289-9000

3/31 [日] 舞台

第20回
リュミエル新体操演技発表会
■大ホール・海 ■14:30~16:30
リュミエル tel.090-3257-2600

2/20 [火] その他

令和5年度「体カアップコンテストしずおか」表彰式
■中ホール・大地 ■13:30~17:00 ※関係者のみ
静岡県教育委員会 健康体育課 tel.054-221-3123

2/23 [金・祝] 音楽

【グランシップ出前公演(島田市)】
第1期グランシップ登録アーティスト
セカンド・イヤール公演
あなたと出会うコンサート in 島田

■島田市民総合施設 プラザおおるり
■14:00～ ■500円(3歳以下入場不可)

「グランシップ登録アーティスト」として、県内各地の学校で活動中の静岡ゆかりのアーティストたち。2年の活動を通して、さらに磨きをかけた演奏をお楽しみください。

ALBOST trio (パーカッション・ピアノ・マリンバ)
Duologue (ピアノ・フルート)
TrioWINGS (ピアノ・サクソフォン・サクソフォン)
ミナトニカ (サクソフォン・ピアノ・ヴァイオリン)

グランシップチケットセンター tel.054-289-9000

2/29 [木] その他

3・1ビキニデー
日本原水協全国集会
全体集会
■中ホール・大地 ■13:00~15:00
原水爆禁止日本協議会
tel.03-5842-6031

2/29 [木] 就職

しずキャリアセミナー in 静岡
■大ホール・海 ■12:00~18:00(予定)
しずキャリア事務局
tel.054-281-5566

2/27 [火] イベント

第5回インザライトプレイス
玉川太福 定例独演会「呵阿太福」
■2階映像ホール
■19:00～(開場18:30～) ■3,000円
インザライトプレイス itrp.2023@gmail.com

3/3 [日] 音楽

大江千里
ひな祭り ジャズ・ライヴ

■中ホール・大地 ■15:00～
■一般6,000円 こども・学生1,000円

2008年に渡米後、ジャズ・ピアニストとしてニューヨークを拠点に活躍する大江千里が贈る、ジャズ・ライヴ。ピアノ・ソロでジャズアレンジした童謡やオリジナルのジャズ曲をお届けします。

グランシップチケットセンター tel.054-289-9000



3/10 [日] 展示

2025ふわりいランドセル
展示会
■6階展示ギャラリー1 ■11:00~15:00
(株)協和 tel.0120-415-991

3/10 [日] イベント

リトル・ママフェスタ静岡
2024 Mar
■大ホール・海 ■10:00~16:00
リトル・ママフェスタ実行委員会
(株)ダイワ内
tel.054-288-2221(平日9:30~18:00)




3/3 [日] 就職

令和5年度
冬・SHIZUOKA
福祉の就職相談会
■大ホール・海 ■13:00~15:30
(福)静岡県社会福祉協議会
静岡県社会福祉人材センター
tel.054-271-2110

<p>1/4[木]～3/17[日] 9:00～16:30 芹沢銈介の収集 海外篇 静岡市立芹沢銈介美術館 一般420円、高大学生260円、小中学生100円、静岡市在住の70歳以上の方・小中学生(通学舎)・未就学児・障がい者手帳等の提示により本人及び同伴者1名無料 【問】静岡市立芹沢銈介美術館 tel.054-282-5522</p> 	<h1>中部 for Central</h1>	<p>3/2[土] 10:00～12:00、13:00～14:30 郷土教室「江戸時代の三島宿」 三島市郷土資料館 無料(楽寿園入園料別途) 【問】三島市郷土資料館 tel.055-971-8228</p>
<p>1/8[月・祝] 14:00～ 金子三勇士 トーク&ピアノ名曲コンサート 藤枝市民会館 一般3,000円、高校生以下1,500円(当日500円増) 【問】藤枝市民会館 tel.054-643-3931</p>		<p>開催中～1/8[月・祝] 9:00～17:00 第31回企画展示会 「アイルランド・日本交流美術展 怪談—ラフカディオ・ハーンとの邂逅— 焼津小泉八雲記念館 無料 【問】焼津小泉八雲記念館 tel.054-620-0022</p>
<p>1/8[月・祝] 15:00～ 井上姉妹×ベノワ・ミロゴ 「心を打つ」～日本とアフリカを繋ぐ伝統～ 焼津文化会館 一般3,000円、高校生以下2,000円 【問】焼津文化会館 tel.054-627-3111</p>	<p>開催中～1/21[日] 9:00～17:00 江戸LIFE 静岡市東海道広重美術館 一般520円、高大学生310円、小中学生130円 【問】静岡市東海道広重美術館 tel.054-375-4454</p>	<p>3/14[木] 19:00～ 新人音楽家による演奏会 富士市文化会館 ロゼシアター 小ホール 1,000円 ※未就学児入場不可 【問】富士市文化会館 ロゼシアター tel.0545-60-2500</p>
<p>1/13[土]～4/16[火] 9:00～17:00 常設展示会Ⅱ 焼津小泉八雲記念館 無料 【問】焼津小泉八雲記念館 tel.054-620-0022</p>	<p>開催中～2/4[日] 9:00～16:30 冬季企画展「登呂遺跡と海」 静岡市立登呂博物館 一般300円、高大学生200円、小中学生50円 市内70歳以上・小中学生(通学舎)・未就学児無料 【問】静岡市立登呂博物館 tel.054-285-0476</p>	<p>松崎町の新名所、田んぼの花畑</p> <p>約30,000平方メートルの農閑期の田んぼに、アフリカキンセンカや瑠璃唐草など6種類のワイルドフラワーが咲き誇ります。2月中旬から見頃となり、5月上旬には無料の花摘みイベントも開催されます。</p>
<p>海の男たちに愛されて</p> <p>焼津では漁業の発展とともに、相撲が漁師たちに愛されていました。大正時代には各所に土俵が作られたそうです。その後、少年相撲クラブも設立。今も小さな力士たちが稽古に汗を流しています。</p>	<p>開催中～2/4[日] 10:00～17:30(最終入館17:00) トピックス展 「大井川は数十万年間どこを流れてきたのか?」 ふじのくに地球環境史ミュージアム 下記企画展入館料、または常設展入館料にて観覧いただけます 常設展入館料は一般300円、大学生以下・70歳以上無料 【問】ふじのくに地球環境史ミュージアム 企画総務課 tel.054-260-7111</p>	<p>3/16[土]・17[日] 10:00～ 第5回 ごてんばバンフェス 御殿場市民会館 入場無料 【問】御殿場市民会館 tel.0550-83-8000</p>
<p>1/13[土] 15:00～ ライジング・スター 上野通明 無伴奏チェロ・リサイタル 静岡音楽館AOI 一般3,000円、22歳以下1,000円 【問】静岡音楽館AOI tel.054-251-2200</p>	<p>開催中～3/24[日] 10:00～17:30(最終入館17:00) 企画展「イネ・米・田んぼ」 ふじのくに地球環境史ミュージアム ふじのくに地球環境史ミュージアム 大人600円、小学生以上大学生以下・70歳以上300円 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその付添者1名は無料 【問】ふじのくに地球環境史ミュージアム 企画総務課 tel.054-260-7111</p>	<p>3/17[日] 14:00～ ロゼシアター開館30周年記念 ロゼ☆よしもとふるさと劇団&お笑い公演 富士市文化会館 ロゼシアター 大ホール 1,500円 【問】富士市文化会館 ロゼシアター tel.0545-60-2500</p> 
<p>1/13[土]・3/24[日] 17:15～19:30(最終入場19:00) オトナ楽しむカガクカン 静岡科学館る・くる 無料(入館料別途) 対象:大人(18歳以上) ※18歳未満の同伴不可 【問】静岡科学館る・くる tel.054-284-6960</p>	<p>開催中～3/31[日] 10:00～19:00 高畑勲展 一日本のアニメーションに遺したものの 静岡市美術館 一般1,500円、高大学生・70歳以上1,100円、中学生以下無料 【問】静岡市美術館 tel.054-273-1515</p>	<p>3/29[金]～31[日] 10:00～16:00 富士宮市民文化会館また会いましょう! フェスティバル 展示部門 富士宮市民文化会館 無料 【問】富士宮市民文化会館 tel.0544-23-1237</p>
<p>1/20[土]～3/3[日] 10:00～17:00(最終入館16:30) リト@葉っぱ切り絵展 in 静岡 駿府博物館 高校生以上800円、中学生以下・障害者手帳ご提示で無料 【問】公益財団法人静岡新聞・静岡放送文化福祉事業団 駿府博物館 tel.054-284-3216</p>	<p>12/23[土]～2/18[日] 9:30～17:00(最終入場16:30) 企画展「ぼくらの世界を紡ぐ糸」 静岡科学館る・くる 無料(入館料別途) 【問】静岡科学館る・くる tel.054-284-6960</p>	<p>3/30[土]・31[日] 9:30～ 富士宮市民文化会館また会いましょう! フェスティバル ステージ部門 富士宮市民文化会館 無料 【問】富士宮市民文化会館 tel.0544-23-1237</p>

<p>愛情いっぱい!伊豆稲取のひな祭</p> <p>江戸末期から伝わる「雛のつるし飾り」。初節句を迎える女の子の健康を願い、母や祖母が飾り物を手作りしています。つるす時の数を奇数にするのは、偶数が「割れる」から。愛情が込められています。</p>	<p>1/7[日]～2/18[日] 10:00～17:00(最終入館16:30) ときめき 美人一培広庵コレクション名品展 佐野美術館 一般・大学生1,100円、小中高生550円 【問】佐野美術館 tel.055-975-7278</p>	<h1>新しい年 感動の瞬間は 文化・芸術から</h1> <h2>1月～3月のイベント情報</h2>
<p>2/4[日] 14:00～ 富士山静岡交響楽団 第123回定期演奏会 三島公演 三島市民文化会館 A席4,500円、B席3,500円、B席学生1,500円 ※当日500円増(B席学生は前売と同額) ※B席学生は25歳以下の大学生まで 【問】三島市民文化会館 tel.055-976-4455</p>	<p>1/20[土]～3/10[日] 9:00～16:30 第60回企画展「東海道に架ける富士の橋」 富士山かくや姫ミュージアム 無料 【問】富士山かくや姫ミュージアム tel.0545-21-3380</p>	
<p>2/4[日] 18:00～ 劇団四季ミュージカル 『クレイジー・フォー・ユー』 富士市文化会館 ロゼシアター 大ホール S席10,000円、A席8,000円、B席5,000円 【問】富士市文化会館 ロゼシアター tel.0545-60-2500</p>	<p>1/21[日] 14:00～ 伊豆の国寄席 立川談笑・柳家三三・桂宮治 三人会 伊豆の国市長岡総合会館 アクシスカつらぎ S席3,700円、A席3,000円 【問】伊豆の国市観光文化課文化振興係 tel.055-948-0225</p> 	<h1>東部 for Eastern</h1>
<p>2/5[月] 13:00～ 歌声カルテットの昭和歌謡コンサート 富士宮市民文化会館 2,500円 【問】マイソングエンタテイメント tel.03-5774-1414</p>	<p>「運命」の主張がすごい!</p> <p>ベートーヴェンの交響曲第5番「運命」は、<i>ダダダダーン</i>のフレーズが有名。第1楽章だけで250回以上も演奏されているそうです。様々な表現の<i>ダダダダーン</i>を楽しんでみては。</p>	<p>開催中～1/8[月・祝] 9:30～16:30 伊豆仏に出逢う 上原美術館の40年 上原美術館 仏教館 大人1,000円、学生500円、高校生以下無料 【問】公益財団法人上原美術館 tel.0558-28-1228</p>
<p>2/16[金] 19:00～ 三枝成彰のレクチャーコンサート クラシックは凄い!Vol.2 富士市文化会館 ロゼシアター 小ホール 2,500円 ※未就学児入場不可 【問】富士市文化会館 ロゼシアター tel.0545-60-2500</p>	<p>「運命」の主張がすごい!</p> <p>ベートーヴェンの交響曲第5番「運命」は、<i>ダダダダーン</i>のフレーズが有名。第1楽章だけで250回以上も演奏されているそうです。様々な表現の<i>ダダダダーン</i>を楽しんでみては。</p>	<p>開催中～1/8[月・祝] 9:30～16:30 絵画は語る—上原コレクションのストーリー— 上原美術館 近代館 大人1,000円、学生500円、高校生以下無料 【問】公益財団法人上原美術館 tel.0558-28-1228</p>
<p>2/23[金・祝] 15:00～ 世界遺産登録10周年コンサート 富士宮市民文化会館 1,000円(予定) 【問】富士宮市富士山世界遺産課 tel.0544-22-1489</p> 	<p>1/27[土] 14:00～ 春風亭柳橋・桂文治 二人会 富士宮市民文化会館 2,000円 【問】富士宮市民文化会館 tel.0544-23-1237</p>	<p>開催中～1/9[火] 9:00～17:00 そうもくちゅうぎょう 山内滋夫展 艸木蟲魚圖 池田20世紀美術館 一般1,000円、高校生700円、小中学生500円 【問】池田20世紀美術館 tel.0557-45-2211</p>
<p>2/24[土]～4/14[日] 10:00～17:00(最終入館16:30) 「鹿児島陸 まいにち」展 佐野美術館 一般・大学生1,100円、小中高生550円 【問】佐野美術館 tel.055-975-7278</p>	<p>1/28[日] 13:30～ 市民によるオペラ カルメン 全4幕(日本語上演) 御殿場市民会館 一般3,000円、中学生以下2,000円(当日500円増) 【問】御殿場市民会館 tel.0550-83-8000</p>	<p>1/3[水] 11:00～、14:00～ お正月子ども映画まつり それいけ!アンパンマン「恐竜ノッシーの大冒険」 三島市民文化会館 おとな300円、子ども(中学生以下)150円 ※未就学児の膝上鑑賞無料 【問】三島市民文化会館 tel.055-976-4455</p>
<p>2/24[土]～4/14[日] 10:00～17:00(最終入館16:30) 「鹿児島陸 まいにち」展 佐野美術館 一般・大学生1,100円、小中高生550円 【問】佐野美術館 tel.055-975-7278</p>	<p>2/3[土] 10:00～12:00、13:00～14:30 郷土教室「楽寿園の自然」 三島市郷土資料館 無料(楽寿園入園料別途) 【問】三島市郷土資料館 tel.055-971-8228</p>	<p>文学の香り漂うまち</p> <p>かつて三島では、古今集の解釈を秘伝として後世へ授ける「古今伝授」が行われていました。伝授された「三嶋千句」が現存していることもあり、「和歌のまち」の気運が高まっています。</p>
<p>2/25[日] 17:30～ 氣志團—Season 3— 推しの子分～転生したら氣志團だった件～ 三島市民文化会館 3,500円 【問】三島市民文化会館 tel.055-976-4455</p>	<p>2/3[土] 10:00～12:00、13:00～14:30 郷土教室「楽寿園の自然」 三島市郷土資料館 無料(楽寿園入園料別途) 【問】三島市郷土資料館 tel.055-971-8228</p>	<p>文学の香り漂うまち</p> <p>かつて三島では、古今集の解釈を秘伝として後世へ授ける「古今伝授」が行われていました。伝授された「三嶋千句」が現存していることもあり、「和歌のまち」の気運が高まっています。</p>
<p>2/25[日] 17:30～ 氣志團—Season 3— 推しの子分～転生したら氣志團だった件～ 三島市民文化会館 3,500円 【問】三島市民文化会館 tel.055-976-4455</p>	<p>2/3[土] 17:45～ 前田健志 & 暁—AKATSUKI—コンサート 富士宮市民文化会館 3,500円 【問】前田健志コンサート実行委員会(前田) tel.090-4085-2611</p>	<p>1/4[木] 11:00～、14:00～ お正月子ども映画まつり それいけ!アンパンマン 「リリカル★マジカルまほうの学校」 三島市民文化会館 おとな300円、子ども(中学生以下)150円 ※未就学児の膝上鑑賞無料 【問】三島市民文化会館 tel.055-976-4455</p>

<p>3/16[土] 19:00～ 月見のカフェコンサートvol.57 ジャズ 袋井市月見の里学遊館 一般1,300円(当日200円増) ※マイカップご持参ください ※チケット販売は1/14より 【問】袋井市月見の里学遊館 tel.0538-49-3400</p>	<p>2/17[土] 10:30～ 親子ふれあいコンサート in なぎの木会館 電洋なぎの木会館 一般500円、中学生以下100円 【問】磐田文化振興会 tel.0538-37-8551</p>	<p>1/27[土] 14:00～ 月見のカフェコンサートvol.56 クラシック 袋井市月見の里学遊館 一般1,300円(当日200円増) ※マイカップご持参ください ※チケット販売は12月末迄は電話・HP問合せフォームのみ対応 1/5より窓口受付再開 【問】袋井市月見の里学遊館 tel.0538-49-3400</p>
<p>3/17[日] 13:30～ 第8回アエル高校生吹奏楽フェスティバル 第24回中東遠地区高校吹奏楽部合同演奏会 菊川文化会館アエル 500円(当日300円増) 【問】菊川文化会館アエル tel.0537-35-1515</p>	<p>2/17[土] 14:00～ 村上将規ピアノリサイタル 使用ピアノ:ペーゼンドルファー Model 225 ヨハン・シュトラウスモデル 茶の蔵かねも ティーカルチャーホール 一般3,000円(当日500円増)、学生1,000円 【問】「若いアーティストを育てる演奏会」実行委員会 (Gala 工房内)高橋 tel.0537-21-1893</p>	<p>1/28[日] 13:30～ 第12回浜松市民バンドフェスティバル 浜松市浜北文化センター 500円(当日200円増)、小学生以下無料 【問】浜松市浜北文化センター tel.053-586-5151</p>
<p>かもめ舞うレトロな駅舎 天竜浜名湖鉄道の浜名湖佐久米駅は、浜名湖をバックにレトロな駅舎やレール上、列車の周りを舞うゆりかもめの大群で人気の映えスポット。ゆりかもめの飛来は、例年12月～2月頃まで。</p>	<p>2/23[金・祝] 14:00～ 歌声カルテットの昭和歌謡コンサート 掛川市美感ホール 一般2,500円、友の会2,200円 【問】掛川市美感ホール tel.0537-23-6543</p>	<p>2/2[金] 19:00～ ハンスイェルク・シェレンベルガー(オーボエ) & マルギットニアナ・シュース(ハーブ) アクトシティ浜松 中ホール S席5,000円、A席4,000円、B席2,500円、学生B席1,500円 【問】(公財)浜松市文化振興財団 tel.053-451-1114</p>
<p>3/18[月] 19:00～ ジャン＝エフラム・バヴゼ(ピアノ) アクトシティ浜松 中ホール S席6,000円、A席4,500円、B席3,000円、学生B席1,500円 【問】(公財)浜松市文化振興財団 tel.053-451-1114</p>		<p>2/3[土] 18:30～ 劇団四季「クレイジー・フォー・ユー」 磐田市民文化会館「かたりあ」 S席10,000円、A席8,000円、B席5,000円 【問】磐田文化振興会 tel.0538-37-8551</p>
<p>3/23[土] 15:00～ 山下洋輔ソロピアノ 使用ピアノ:ペーゼンドルファー Model 225 ヨハン・シュトラウスモデル 茶の蔵かねも ティーカルチャーホール 一般5,000円 ご予約のみ 【問】MUSIC&ART Support 坂井 tel.080-4450-8150</p> 	<p>2/24[土] 14:00～ 月のうさぎコンサート メローブラザ 一般2,000円、高校生以下1,000円(当日200円増) 4歳以上入場可 ※チケット販売は12月末迄は電話・HP問合せフォームのみ対応 1/5より窓口受付再開 【問】袋井市月見の里学遊館 tel.0538-49-3400</p>	<p>浜松の冬の味覚を満喫! 国内で流通している9割が養殖ものという中で、とても希少な「遠州灘天然とらふく」。天然ならではの香りや旨み、身のしまり、歯ごたえを、多彩なふぐ料理で楽しんでみては。</p>
<p>3/24[日] 15:00～ かたりあPresents ポップカルチャーLIVE 磐田市民文化会館「かたりあ」 5,300円 【問】磐田文化振興会 tel.0538-37-8551</p>	<p>「ゆるみくじ」に注目! 近年は人形の中におみくじを入れて授与する神社があるそうです。磐田市・見付天神矢奈比賣神社では、しっぺい太郎伝説にちなんだ「しっぺいおみくじ」が人気。金色の輝々しい眉にキュンです。</p>	<p>2/4[日] 18:30～ レクチャーコンサートNo.215 ユーフォニアムの魅力～音の博物館～ 浜松市楽器博物館 一般2,500円、学生1,000円 【問】浜松市楽器博物館 tel.053-451-1128</p>
<p>3/31[日] 15:00～ 須川展也 デビュー40周年コンサート アクトシティ浜松 大ホール 指定席(1階席)2,500円 自由席(2階席～)一般1,500円、学生1,000円 【問】(公財)浜松市文化振興財団 tel.053-451-1114</p>	<p>3/3[日] 10:00～ ～御前崎みんなの映画祭～ 「長ぐつをはいたネコと9つの命」 御前崎市民会館 500円 【問】公益財団法人御前崎市振興公社 tel.0537-63-0195</p>	<p>2/10[土] 15:30～ 渡辺真知子コンサート2024 ～花束をありがとう～ 森町文化会館 6,500円 【問】森町文化会館 tel.0538-85-1111</p>
<p>県内イベント情報はWEBでご覧いただけるようになりました! グランシップHPはこちらのQRコードから</p> 	<p>3/3[日] 14:00～ ～御前崎みんなの映画祭～ 「お終活 熟春! 人生、百年時代の過ごし方」 御前崎市民会館 500円 【問】公益財団法人御前崎市振興公社 tel.0537-63-0195</p>	<p>2/12[月・休] 15:00～ 北村朋幹【指揮・ピアノ】 名古屋フィルハーモニー交響楽団 アクトシティ浜松 中ホール S席5,500円、A席4,500円、B席3,000円、学生B席1,500円 【問】(公財)浜松市文化振興財団 tel.053-451-1114</p>

<p>「七草粥」で新年を健やかに 七草粥の起源は平安時代。無病息災を願い若菜を摘んで食べる慣習が、やがて疫病予防と邪気払いのおまじないとして現在の七草粥になったそうです。七草の多様な栄養素を取り入れよう。</p>	<p>2/23[金・祝] 15:00～ 「日本歌曲の系譜」シリーズ番外編 大衆歌曲と流行歌の歴史 静岡音楽館AOI 一般3,500円、22歳以下1,000円 【問】静岡音楽館AOI tel.054-251-2200</p>	<p>1/23[火]～3/31[日] 9:00～17:00 浮世絵花ごよみ ～浮世絵で楽しむ江戸の花～ 静岡市東海道広重美術館 一般520円、高大学生310円、小中学生130円 【問】静岡市東海道広重美術館 tel.054-375-4454</p>
<p>1/13[土]～5/7[火] 9:30～17:00 企画展 「響き渡る 日本にやってきたラッパ」 浜松市楽器博物館 入館料のみ 【問】浜松市楽器博物館 tel.053-451-1128</p>	<p>2/24[土]～5/12[日] 9:00～16:30 登呂遺跡発見80周年記念企画展 「古代の稲作と実験考古学」(仮) 静岡市立登呂博物館 一般300円、高大学生200円、小中学生50円、市内70歳以上・小中学生(通学舎)・未就学児無料 【問】静岡市立登呂博物館 tel.054-285-0476</p>	<p>御前崎灯台が生誕150周年! 1874年に初点灯して以来、海上の安全を守ってきた白亜の洋式灯台。「日本の灯台50選」に選出され、「のぼれる灯台」の1つでもあります。らせん階段を上れば大海原と富士山のパノラマ!</p>
<p>1/14[日] 13:30～15:20 小和田哲男氏講演会 「関ヶ原合戦後の井伊氏と彦根城築城」 みをつくし文化センター 1,200円(当日500円増) 【問】みをつくし文化センター tel.053-523-3116</p>		<p>1/27[土] 15:00～ 伝承の力 古典の現在(いま) 藤本昭子の地歌 静岡音楽館AOI 一般3,500円、22歳以下1,000円 【問】静岡音楽館AOI tel.054-251-2200</p>
<p>1/20[土]・21[日] 10:00～ はまきたまるごと文化フェス2024 浜松市浜北文化センター 入場無料 【問】浜松市浜北文化センター tel.053-586-5151</p>	<p>90年前の名シーンが蘇る 元祖・二刀流のペーパ・ルースが、草薙球場での日米野球大会に出場したのは90年前。球場前には、球史に残る快投を見せた沢村栄治選手との対戦シーンを描いた銅像が建立されています。</p>	<p>1/28[日] 14:00～15:30 林直輝氏講座 静岡県のだるま文化 ー「岡吉のだるま」はなぜ生まれたかー 焼津小泉八雲記念館 無料 【問】焼津小泉八雲記念館 tel.054-620-0022</p>
<p>1/20[土] 10:30～、13:30～ 絵本と楽しむクラリネット 掛川市美感ホール おとな1,500円、こども(3歳～高校生以下)500円 【問】掛川市美感ホール tel.0537-23-6543</p> 	<p>3/3[日] 10:00～15:30受付 おもしろ科学フェスティバル 静岡科学館る・くる 無料(入館料別途) 【問】静岡科学館る・くる tel.054-284-6960</p>	
<p>3/16[土] 14:00～ オルガン¥500コンサート スプリング・コンサート 三原麻里 静岡音楽館AOI 500円 【問】静岡音楽館AOI tel.054-251-2200</p>	<p>3/20[水・祝]～5/6[月・休] 9:30～17:00(最終入場16:30) 静岡科学館る・くる20周年企画展 「世界は「回る」でできている! みる・きく・さわるでグルグル展」 静岡科学館る・くる 無料(入館料別途) 【問】静岡科学館る・くる tel.054-284-6960</p>	<p>2/2[金] 19:00～ 榎本大進(ヴァイオリン) & エリック・ル・サージュ(ピアノ) デュオ・リサイタル ※残券僅少 静岡音楽館AOI 一般5,000円、22歳以下1,000円 【問】静岡音楽館AOI tel.054-251-2200</p>
<p>1/21[日] 11:00～、14:00～ ミュージアムサロンコンサート ～かるわざし～コレネット 浜松市楽器博物館 入館料のみ 【問】浜松市楽器博物館 tel.053-451-1128</p>	<p>3/16[土] 14:00～ オルガン¥500コンサート スプリング・コンサート 三原麻里 静岡音楽館AOI 500円 【問】静岡音楽館AOI tel.054-251-2200</p>	<p>2/6[火] 14:00～ 歌声カルテットの昭和歌謡コンサート 焼津文化会館 2,500円(当日500円増) 【問】焼津文化会館 tel.054-627-3111</p>
<p>1/27[土] 14:00～ 第27回新春森町寄席 森町文化会館 4,500円 【問】森町文化会館 tel.0538-85-1111</p>	<p>西部 for Western</p>	<p>2/17[土] 11:30～ ランチタイム・コンサート 原田節 2台オンド・マルトノの世界 ～市橋若菜を迎えて～ 静岡音楽館AOI 一般1,800円、22歳以下1,000円 【問】静岡音楽館AOI tel.054-251-2200</p>
<p>1/27[土] 14:00～ 令和5年度公共ホール音楽活性化支援事業 加藤直明トロンボーン × 松尾俊介クラシックギター 菊川文化会館アエル 一般1,500円、高校生以下500円 【問】菊川文化会館アエル tel.0537-35-1515</p>	<p>開催中～2/12[月・休] 9:00～17:00 企画展 郷土誌からみる浜松の今昔 ～家康の時代を中心に～ 浜松文芸館 無料 【問】浜松文芸館 tel.053-453-3933</p>	<p>2/18[日] 13:00～15:30受付 カイクの蒔から糸を繰ろう! 静岡科学館る・くる 無料(入館料別途) 【問】静岡科学館る・くる tel.054-284-6960</p>

静岡県富士山世界遺産センター

ふじのくに地球環境史ミュージアム

1/1(月・祝)～2/12(月・振休) ※1/16と1/17は展示替えのため休室

令和5年度特別展 富士山世界遺産登録10周年記念
シリーズ江戸文化のなかの富士山6

富士山 藝術の源泉

本特別展では、万延元年(1860)に遣米使節が持参した徳川將軍から米國大統領への贈答品であることが明らかになった狩野董川
中信筆「富士飛鶴図」を中心に、幕末・明治の動乱期に活躍した狩
野派画家の作品を展示し、近世・近代転換期における富士山イ
メージの意義を再検証します。

会場/静岡県富士山世界遺産センター2階 企画展示室 料金/一般700円、70歳以上200円、大学生等以下・障がい者 無料(証明書をご提示ください)※常設展観覧料を含む

見どころ
ガイド

それからの狩野派— 幕府御絵師から帝室技藝員、
江戸城から明治宮殿、そして徳川から明治へ

幕末から明治二十年代の近世から近代への転換期に生きた狩野派画家たちの作品を、富士山図を中心
に集成。江戸城襖絵の下絵や徳川將軍から米國大統領に贈られた掛幅、嘉仁親王(のちの大
正天皇)立太子に際し明治天皇に献上された掛幅など、時代のターニングポイントを飾った狩野派の
富士山図も展示します。

見どころ
ガイド

県内に所蔵される襖絵の名品を展示

幕府御絵師の狩野伊川院榮信と狩野晴川院養信が表裏面を描いた臨濟寺書院襖絵(静岡市)、さ
らに帝室技藝員の瀧和亭と野口幽谷が表裏面を描いた旧小松宮別邸楽寿館楽寿の間襖絵(三島
市)など、県内に所蔵される襖絵の名品を展示します。

聴いてみよう!《公開講座》
「幕末明治、政治・外交史のなかの“富士山”」

1/21(日)
14:00～16:30

講師(予定。変更の場合あり):
エステル・ポエール氏(フランス国立東洋言語文化大学教授<オンライン>)
田中純一朗氏(皇居三の丸尚蔵館研究員)
松島仁(静岡県富士山世界遺産センター教授/徳川記念財団特別研究員)

定員:30名

会場:静岡県富士山世界遺産センター1階研修室

参加費:無料、要事前申込(申込期間:～1/17)

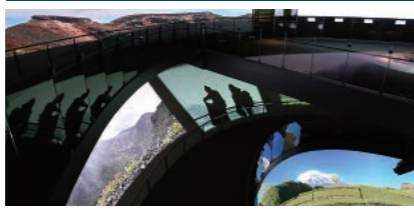
※センター公式HP内の予約システムからお申し込みください。



松島 仁
(静岡県富士山世界遺産センター教授)

《常設展・シアター》も観てみよう

登拝する山(展示棟1～5階)



タイムラプスの映像を見ながら全長193mのらせ
んスロープを上ることで、静岡県の特色である海
からの富士登山を疑似体験できます。

映像シアター(2階)



美しい富士山をたのし
んでいただけるよう、
265インチスクリーンを
備え、4K画質のプロジ
ェクターを設置してい
ます。「天の巻」「地の
巻」「宙(そら)の巻」の
3番組を上映していま
す。(各上映時間は約
8分間)

狩野董川中信・富士飛鶴図(1860)
(万延元年遣米使節持参品)

開催中～**3/24(日)**

— 人がつくる米_米がつくる世界 —

イネ・米・田んぼ

会場/ふじのくに地球環境史ミュージアム企画展示室1・2
有料企画展観覧料/一般600円、小学生以上大学生以下・70歳以上300円
身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその付添者1名は無料。常設展も併せてご覧いただけます。

私たちの主食として当たり前のようにそこにある米。もとは野に生き
ていたイネが、どうして米を生む「稲」となったのでしょうか。そして、
米をめぐる人々の営みの歴史は、地域の自然や文化にどのような影
響を与えてきたのでしょうか。本展では、東アジアの稲作や米食文
化に焦点を当て、「米とは何か?」を問い直します。



撮影地:久留女木の棚田(浜松市) 撮影者:小栗 進

見どころ
ガイド

イネの自然史
— 目からウロコの「イネ植物学」

そもそもイネとはどういった植物なのか。イネの進化の道筋や、イネ
の仲間(イネ属)の標本などを通して、「植物としてのイネ」を振り返
ります。

見どころ
ガイド

田んぼと生物多様性
— 田んぼは豊かな自然の象徴か? —

田んぼの生物、大集合!稲作方法の変化により生物の顔ぶれも変
わります。彼らのプロフィールを紹介し、いま田んぼで何が起きてい
るのかを考えます。

親子で楽しめる、イネ・米・田んぼの《体験講座》

※各イベント参加には事前申込みが必要です。
特設ページからお申し込みください。



縄をなう

稲ワラを使って、
縄をなってみましょう。



日時・会場:
特設ページで
ご確認ください。
講師:ミュージアム
サポーター
料金:観覧料のみ
対象:どなたでも
定員:15名

甘酒と水あめ

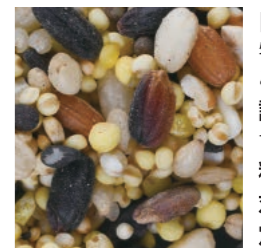
米や稲・麦を使って、
甘酒と水あめを作りましょう。



日時・会場:
特設ページで
ご確認ください。
講師:ミュージアム
サポーター
料金:観覧料のみ
対象:どなたでも
定員:15名

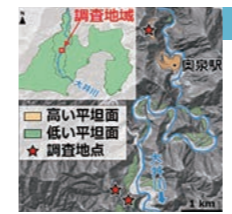
雑穀米★オールスターズ

様々な穀物からなる雑穀米の実は
どんな植物なのか学びましょう。



日時・会場:
特設ページで
ご確認ください。
講師:ミュージアム
サポーター
料金:観覧料のみ
対象:どなたでも
定員:15名

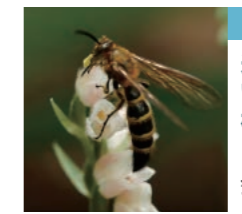
《トピックス展》《特別展示》《ミドルヤード展》は観覧料にてご覧になれます



トピックス展

大井川は数十万年間
どこを流れてきたのか?

日時:～2/4(日)
会場:ホットトピック
ギャラリー



特別展示

送粉者のマルハナバチの
いない海洋島で起こった
植物の驚きの進化

日時:～1/8(月・祝)
会場:ホットトピック
ギャラリー



ミドルヤード展

ふじのくに
キノコ写真展2023
-野生のキノコ-

日時:～1/8(月・祝)
会場:講座室C
※最終日は13時まで



静岡県富士山世界遺産センター

富士宮市宮町5-12 電話番号/0544-21-3776 開館時間/9:00～17:00(最終入館16:30)(7・8月 9:00～18:00 最終入館17:30)
休 館 日/毎月第三火曜日、施設点検日、年末
常設展観覧料/一般300円、団体(有料観覧者20名以上)200円/人、15歳未満・70歳以上・学生・障がい者等(要証明)無料



HPIはこちら



ふじのくに
地球環境史
ミュージアム
Museum of Natural and
Environmental History, Shizuoka

ふじのくに地球環境史ミュージアム

静岡市駿河区大谷5762 電話番号/054-260-7111 開館時間/10:00～17:30(最終入館17:00)
休 館 日/毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は次の平日)、年末年始
観 覧 料/大人300円、団体(20名以上)200円/人、大学生以下・70歳以上・障害者手帳をお持ちの方と
その付添者1名は無料。キッズルームと図鑑カフェは無料でご利用いただけます。



HPIはこちら

スキャンダラスな色恋沙汰は抱腹絶倒の喜劇?! 劇団SPACが総力をあげて、 新年あなたを笑わせにかかります!

SPAC秋→春のシーズン2023-2024 #3

ばらの騎士

演出:宮城聰・寺内亜矢子 作:フーゴ・フォン・ホーフマンスタール 音楽:根本卓也
不朽の名作オペラとして知られる『ばらの騎士』。その舞台が華やかな鹿鳴館時代の日本に置き換わり、宮城聰、寺内亜矢子の初共同演出と、古典から現代音楽まで自在に操る根本卓也の音楽で、軽快な演劇作品に生まれ変わります。俳優たちの生演奏にのせ、貴族たちのドタバタラブコメディが初笑いを誘います。

1/7[日]・8[月・祝]・13[土]・14[日]・20[土]・21[日]・3/10[日]
各日14:00開演 会場:静岡芸術劇場

主催・製作:SPAC-静岡県舞台芸術センター
助成:文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(劇場・音楽堂等機能強化総合支援)) 独立行政法人日本芸術文化振興会



県内ツアー情報



東アジア 文化都市 2023静岡県 静岡県 伊豆文学祭 記念事業

伊豆の踊子

台本・演出:多田淳之介 作:川端康成 映像監修:本広克行

演劇+映像で味わう伊豆旅情

川端康成の伊豆旅行体験を元にした小説を多田淳之介の演出により舞台化。作中に登場する風光明媚な地の撮り下ろし映像を組み込み、新感覚の「観光演劇」として県内各地へお届けします。

2023年 12/23[土]13:30開演 会場:修善寺総合会館 大ホール
2/10[土]13:30開演 会場:浜松市浜北文化センター 大ホール
2/25[日]13:30開演 会場:沼津市民文化センター 大ホール



撮影:三浦興一

チケット料金 (税込)	一般 4,200円 U25・学生割引 2,000円 [25歳以下および大学生・専門学校生] 1,000円 [高校生以下]	チケット購入方法	電話 SPACチケットセンター (10:00~18:00、年末年始・休業日を除く) TEL: 054-202-3399 ウェブ https://spac.or.jp/ticket
-------------	--	----------	---

『ばらの騎士』は、グランシップチケットセンターでもご予約・ご購入いただけます!(土日の公演のみ)

取り扱い券種 (税込)	一般 4,200円 高校生以下 1,000円	チケット購入方法	電話 TEL: 054-289-9000 (10:00~18:30、グランシップ休館日を除く) ウェブ https://www.granship.or.jp/visitors/ticket/ (24時間受付)
-------------	---------------------------	----------	---

舞台芸術公園から、四季のお便り 冬は空気が澄んでいて、園内から望む富士山が青い空によく映えます。



舞台芸術公園は、SPACの活動拠点の一つ。園内には3つの劇場があり、時代とともに変化し現代へと受けつがれてきた劇場建築の髄が盛り込まれています。そんな“生きた劇場博物館”でもある舞台芸術公園の背景となる世界の劇場の歴史を、せかいの劇場ミニミュージアム「てあとろん」では詳しくご紹介しています。自然豊かな園内を楽しむ「てあとろんデー」、次回は2024年1月27日(土)開催です。SPAC俳優のガイドによる園内見学ツアーなど各種イベントのほか、「カフェてあとろん」のスペシャル営業も!詳細はSPAC公式サイトをご確認ください。



Instagramで園内の写真を発信しています

そのほか最新情報は、SPAC公式サイトをご覧ください。 <https://spac.or.jp>



各種SNSにて発信中!

X Instagram Facebook YouTube TikTok LINE公式アカウント



撮影:猪熊 康夫

根本卓也(ねもと・たくや)

東京藝術大学大学院修士課程(指揮専攻)修了。在学中に故・若杉弘氏に、英・独・伊・羅・露・チェコ語に至るまで、あらゆる舞台作品を原語で解する類稀な才能を見出されキャリアをスタート。以来、国立劇場オペラ部門音楽スタッフとして年間を通して公演に寄与する傍ら、東京二期会・OMF・ニッセイオペラ等、国内の主要団体で合唱指揮・ディレクションコーチ・作品レクチャー等多岐にわたり活躍。業界の屋台骨として欠くべからざる存在となっている。これまでにオペラ2作品(景虎〜海に消えし夢)(2018)《寡婦アフロディシア》(2021)、カンタータ《臨死船》(2016)ほか、声楽作品を中心に発表している。

『ばらの騎士』音楽・根本卓也インタビュー 台詞のテンションと双方向に高めあう音楽を

SPAC秋→春のシーズン2023-2024のラストを飾る、宮城聰と寺内亜矢子の共同演出による新作『ばらの騎士』。ウィーン貴族たちの華やかな恋模様を描いた有名オペラを、SPAC版では日本の鹿鳴館時代に置き換え、思わず笑ってしまう軽快な演劇作品として新春にお届けする。

今回、SPAC初参加となる「練馬のシネトラウス」こと根本卓也さんに、宮城聰の印象やSPAC俳優との稽古の様子を聞いた。

— 演出家・宮城聰の印象は? —

2017年に日生劇場のオペラ『ルサルカ』で、はじめて一緒に作曲された。オペラは全編、音楽が作曲されていて尺の自由がないということもあり、演出家は「振付」のように、この音楽やこの言葉をきっかけにこう動く、と手取り足取り指示することが多いのですが、宮城さんはイメージを手短かに伝えたら、歌手が自分で考えて何かするまで黙って見ている。そして、それに対するコメントも禅問答のように抽象的で、いわゆる「正解」を提示しない。そういうやり方に不慣れな歌手からは、

戸惑いの声も上がりましたが、私はオペラをちゃんと「演劇」として扱っていることにとっても感銘を受けました。

— SPAC俳優との稽古はいかがですか? —

譜面を読める方は少ないのですが、素晴らしい声の持ち主もいましたし、長年訓練されている打楽器のアンサンブルはとても高い演奏スキルをお持ちで、こちらが舌を巻きました。私が静岡を離れている期間も、毎日の稽古を録音・録画してもらい、リモートでフィードバックするという作業を続けていたのですが、日々の進化速度がすごい!

私の方針として、舞台中の台詞のやり取りを聴き取りながら、そのテンションと双方向に高め合うような音楽でありたいと思っています。(8月に行われた第一期稽古では、即興の多さや、これまでは異なる耳の使い方に皆さん苦労されているようでしたが、これからどう仕上がっていくのか楽しみです。

— SPAC版『ばらの騎士』の見どころをお聞かせください。

宮城さんが初日に「ホーフマンスタールの言葉を、シネトラウスの音楽から解き放ちたい」という

趣旨のことをおっしゃっていました。オペラ『ばらの騎士』の音楽の雄弁さは、確かにいくつかの場面において、「何を喋っているかはもはやどうでも良くなる」瞬間を作っているのも事実。それをストリートプレイで提示したときに、オペラでは音楽の影に隠れていた微細な心理の揺れ動きがクリアに見えてくるのではないかと思います。と同時に、この公演は静岡県内の中高生向け公演もあるのでも、エンタメ要素も盛り込み、演劇ファンも、オペラファンも、老いも若きも、様々な視点でお楽しみいただけるはず。どうぞご期待下さい!

根本卓也インタビューのロングバージョンは、SPAC公式サイトにて公開しています。



撮影:猪熊 康夫



知られざる野外美術の全貌。

村上誠・渡《山田(一)》1988-89年 旧引佐郡細江町気賀

あまつちこうさく 天地耕作 初源への道行き

2024 2/10 sat ~ 3/27 wed

10:00~17:30(展示室への入室は17:00まで)
休館日=月曜休館、ただし2/12(月・祝)は開館し、翌日休館。

観覧料=一般1,000円(800円) 70歳以上500円(400円) 大学生以下無料
*()内は前売及び20名以上の団体料金。*収蔵品展、ロダン館も併せてご覧いただけます。
*身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方と付添者1名は無料

主催=静岡県立美術館、静岡新聞社・静岡放送
助成= 芸術文化振興基金

静岡県立美術館
Shizuoka Prefectural Museum of Art

天地耕作とは何だったか? 美術館では初となる個展「天地耕作 初源への道行き」



左から村上渡、山本裕司、村上誠(1997年、フィンランド)



村上誠・渡《産土-その二》
1991年 旧引佐郡引佐町谷下



村上誠・渡《産土-その四》
1994年 旧浜北市姥ヶ谷



「パフォーマンス《身体遊戯》での山本裕司」
1994年 旧浜北市姥ヶ谷



村上誠・渡《産土-その七》
1997-99年 旧引佐郡細江町気賀



山本裕司《墳墓-その八》
1997年 フィンランド・ラハティ

「あまつちこうさく
天地耕作」
は、村上誠と村上渡の兄弟と、山本裕司の3名が協働で行った、美術制作のプロジェクト。展覧会では、天地耕作の活動の軌跡をたどる。彼らの作品は、生や死といった根源的なテーマに挑むもので、石や土、木材、流木、縄などを素材に用いた、野外で制作される大がかりなものであった。しかしながら、制作発表場所は、彼らの私有地や採石場跡地、湖畔などであり、一般的な野外展などに比べるとアクセスや公開期間が限られ、鑑賞者も限られていた。その活動を知る者は多くはない。

また、1991年からは、造形物に加えてパフォーマンスが伴うようになった。パフォーマンスは、彼ら自身のほか、舞踏家など外部からの出演もあった。2003年、静岡文化芸術大学ギャラリーで「天地耕作、まで」展が開催され、同時期に、作品とパフォーマンスの公開を行う一方、非公開の作品制作を彼らの私有地で行った。これが天地耕作としての最後の活動となる。

近年、天地耕作はアーカイブ展示や著作でも取り上げられ、再評価が進みつつあるが、美術館において個展が開催されたことは未だなかった。本展は、美術館では初の個展として開催されるものである。写真や資料、新たに発見された映像などにより、活動の全貌を明らかにするとともに、遠州奥三河の伝統芸能に着想を得たインスタレーションを発表予定。また、2003年の未完となっていた野外作品のプランを、20年を経て美術館の裏山にて実現させる計画があり、本展の見どころの一つとなる。

関連イベント ※各イベントとも会場は美術館講堂、定員は先着250名まで(申込不要・無料)となります。

特別講演会1

「天地耕作を開袋／解体する」

2月18日(日) 14:00~15:30

講師: 山本浩貴氏(金沢美術工芸大学講師/文学)

特別講演会2

「円環が生まれ、壊れるとき」

2月24日(土) 14:00~15:30

講師: 赤坂憲雄氏(学習院大学教授/民俗学)

館長美術講座

「あとに残さないことと残すことについて、美術篇」

3月3日(日) 14:00~15:30

講師: 木下直之(静岡県立美術館館長)

トークセッション

「天地耕作、から」

3月17日(日) 14:00~15:30

講師: 川田都樹子氏(甲南大学教授/美学)、村上誠氏、村上渡氏、山本裕司氏

静岡県立美術館
Shizuoka Prefectural Museum of Art

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2
企画総務課Tel.054-263-5755 Fax.054-263-5767
学芸課Tel.054-263-5857
ウェブサイト…<https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp>

静岡県立美術館

検索

グランシップ企画事業 2月のチケット発売開始情報

2023年12月の情報です。内容等変更となる場合があります。チケット購入、公演・イベントへご来場の際には、必ずグランシップホームページで最新情報をご確認ください。

NHK交響楽団 静岡公演 決定!

6/1(土) 17:00~

中ホール・大地

SS席9,500円、S席8,500円、A席7,500円

こども・学生1,000円

【出演】

広上淳一(指揮)、NHK交響楽団(管弦楽)

上野通明(チェロ)

【曲目】

リムスキー・コルサコフ:交響組曲「シェエラザード」作品35

ドヴォルザーク:チェロ協奏曲 口短調 作品104

友の会先行販売 2/18(日)~24(土)

一般発売 2/25(日)~

※その他2024年4月以降の公演についてはグランシップホームページで順次公開します。



広上淳一(指揮)



上野通明(チェロ)

TICKET グランシップ企画事業の公演チケットは、以下の方法でお求めいただけます。(ご購入の際には、友の会へのご入会がおすすめです。)

グランシップWEBサイトから

<https://www.granship.or.jp/visitors/>

<https://ykk1.ka-ruku.com/granship-s/>



パソコンまたはスマートフォンで、グランシップWEBサイトのトップページの「チケット購入」から、空席状況に応じてお好きな席をお選びいただけます。(要事前登録、無料)

チケットの受取
コンビニ(セブンイレブン、ファミリーマート:手数料無料)、郵送(送料370円)、電子チケット(手数料無料)、グランシップチケットセンターが利用できます。(予約日から7日以内)

お電話で

グランシップチケットセンター

TEL.054-289-9000(10:00~18:30)※休館日を除く

チケットの受取 コンビニ(ファミリーマート:手数料無料)、郵送(送料370円)、グランシップチケットセンターが利用できます。(予約日から7日以内)

グランシップチケットセンター窓口で



グランシップ内チケットセンター窓口(10:00~18:30)※休館日を除く

チケットの受取 お支払い(現金またはクレジットカード)後、その場でチケットをお渡します。

PRESENT 『GRANSHIP』vol.36 読者アンケートプレゼント

しずおか連詩 言葉の収穫祭 (野村喜和夫 編 左右社)

2名様

『GRANSHIP』vol.36のアンケートにお答えいただいた方の中から抽選で、2005年から2022年にかけて開催した「しずおか連詩の会」で生まれた連詩をまとめた『しずおか連詩 言葉の収穫祭』を2名様にプレゼントいたします。郵便はがきまたはメールで、住所・氏名・性別・職業・電話番号・アンケートのお答えをご記入の上、下記までお送りいただくか、グランシップHPの申込フォームよりエントリーください。

[1] 今号でよかった記事は? [2] 本誌へのご意見・感想をお聞かせください。アンケート内容は、今後の誌面作りの参考とさせていただきます。尚、頂いた個人情報はプレゼントの発送にのみ使用します。締切は2024年2月15日(当日消印有効)です。

官製はがき宛先

〒422-8019 静岡県静岡市駿河区東静岡2丁目3番1号
グランシップマガジン『GRANSHIP』vol.36 プレゼント係

メール宛先

info@granship.or.jp
(件名に、『GRANSHIP』vol.36
読者アンケート係 とご記入ください)



グランシップHPの専用申込フォームはこちら

GRANSHIP SUPPORTER



グランシップでは、スタッフと共にグランシップの運営を支えるボランティアスタッフ約140名が「グランシップサポーター」として活動中!今回は、グランシップ企画事業を写真で記録する撮影サポーターの活動を紹介いたします。

撮影サポーターは公演やお客様の様子を様々な角度から撮影。撮影された写真はグランシップ広報誌やホームページ、SNSなどで活用されています。また、その中から選ばれたベストショットを「グランシップ撮影サポーター写真展示」で披露しています。12月初頭、入替作業を行い展示作品をリニューアル!写真に添えられたサポーターのコメントにもご注目を。サポーター目線での写真を通して、グランシップの取り組みをぜひご覧ください。

グランシップ撮影サポーター写真展示(後期)開催中!〈観覧無料〉

撮影サポーターがグランシップの公演を撮影した写真を展示中!
〈展示期間〉~2024年6月中旬 〈場所〉1階文化情報コーナー通路
※休館日を除く開館時間中にご覧いただけます。

編集後記

一人で作業をすることが多い詩人・歌人の皆さんにとって、意見を交わしながら詩を編む「しずおか連詩の会」は、普段の自分からは出ない言葉も出てくる新鮮な体験なのだそうです。そしてこの度、2005~2022年の作品をまとめた「しずおか連詩 言葉の収穫祭」も刊行。その時、その場にいたメンバーだからこそ生まれた作品の数々。今号と合わせて、言葉の世界にたっぷり浸ってみませんか。

グランシップを飛び出して、きみ住むまちへ!アウトリーチ活動

グランシップ 子どもアート体験! 学校プログラム

たくさん子どもたちに本物の芸術をお届けする、アウトリーチ活動を実施しています。



「2023年 しずおか連詩の会」 関連アウトリーチ 「詩人と語ろう! 言葉を語ろう!」

2023年10月29日(日)
静岡県立三島北高校文芸部1~2年生 生徒6名
会場:三島市民文化会館 会議室

静岡県文化財団・グランシップでは、県民の皆様にも多彩な文化芸術を体験する機会を多く持っていたくため、国内外の芸術家や静岡ゆかりのアーティストによるコンサートやワークショップなどのアウトリーチ活動を各地の文化施設や学校で積極的に実施しています。今回は、11月12日に三島市民文化会館で行われた「2023年しずおか連詩の会in三島」を前に、三島北高校文芸部のみなさんが、「しずおか連詩の会」でさばき手を務める詩人・野村喜和夫さんと、連詩の創作ワークショップに取り組みました。

文芸部のみなさんは、日頃の活動の中で短編小説などの創作活動に取り組んでいますが、現代詩に取り組みの機会は少ないとのこと。まずは、講師の野村喜和夫さんが「詩」とは何か、その魅力や面白さについて、分かりやすく説明。その中には、「詩の中の言葉は全て正確に伝わらなくてもよい」、「美しいと感じることだけでもよい」、また「ある手続きを経ると言葉が詩になる瞬間がある」というお話がありました。

後半は、2つのグループに分かれて、いよいよ連詩の創作に取り組みます。野村喜和夫さんが創った発句(第1詩)の5行詩に続き、そこからそれぞれのグループのメンバーが3行詩で



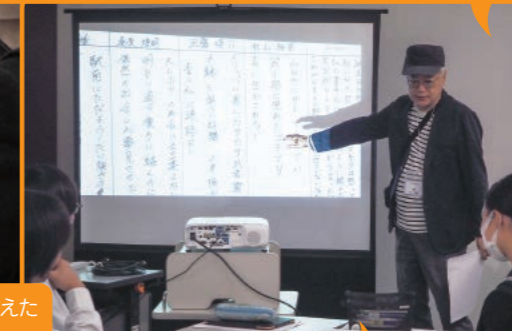
普段の活動は個人での執筆が多いので、共同作業で作品を作る楽しさを感じた。(生徒)

繋げていきます。創作のルールには、前の詩から受けたイメージを繋げて創ることに加え、3行詩の中には自分の名前の漢字1字を使用するという条件もありました。例として、秋山さんは「山の中に」、武藤さんは「武者震い」、志穂さんは「抜け出す意志」というような、言葉遊びが含まれます。中には、前の詩から受けて韻を踏んだり、陰と陽の言葉をうまく組み合わせたりと、はじめてとは思えない遊び心のある作品が2つ完成しました。野村喜和夫さんからは、高校生とともに連詩創作に参加した喜びと、作品を讀める言葉が贈られました。完成した2つの連詩は、「2023年しずおか連詩の会」の会場ロビーにも展示され、多くのお客様にご覧いただくことができました。

グループごと作品の違いが顕著に表れ、普段見られない感受性や物事の捉え方を垣間見ることができた。(生徒)



「言葉が詩になる瞬間」ということはこれまで考えたことがなかった発想で興味がわいた。(生徒)



「予見不可能性」ということがこれからの活動に繋がられると感じた。(生徒)

